

あんず だより

2022

VOL.05

令和4年4月1日発行

診療科のご紹介「皮膚科」…………… 2

診療科のご紹介「形成外科」…………… 3

第24回千曲中央病院学術集会…………… 4

COVID-19ワクチン接種後における血液凝固時間の変化 6

遥はるばると一集いし人々とともに 大西益太郎伝 その5 …… 7

外来担当医一覧表…………… 8



当院でイボやしみの治療に使用している「炭酸ガスレーザー」(左・中)と「Qスイッチルビーレーザー」(右) ※本文3頁参照

診療科案内

- 内科
- 肝臓・消化器内科
- 腎臓内科
- 循環器内科
- 呼吸器内科
- 糖尿病・内分泌・代謝内科
- 消化器外科
- 肝臓・胆のう・膵臓外科
- 整形外科
- 脳神経外科
- 泌尿器科
- 皮膚科
- 形成外科
- 放射線科
- 麻酔科
- リハビリテーション科
- 歯科
- 人工透析センター



千曲中央病院学術集会の様子

CHIKUMA CENTRAL HOSPITAL

TEL.026-273-1212 FAX.026-272-2991

URL <http://www.chikuma-chp.com>



千曲中央病院
ホームページ

診療科のご紹介

皮膚科



皮膚科部長
今井 聖

《コロナ禍と肌トラブル》

マスク生活になってから、顔の肌トラブルがみられるようになった方も多いのではないのでしょうか。摩擦や蒸れなどから、皮膚が赤くなったりかさついたり、ニキビが出来やすくなったりする事があります。

感染防御の観点から不織布マスクが推奨されていますが、これが一番トラブルを引き起こしやすいように思います。不織布マスクの内側にガーゼを入れるだけでもトラブルは軽減されます。また、マスクを着ける前に保湿クリームを塗布しておくことで摩擦が少し和らぎます。夏場や運動時、汗をかいて蒸れた時は適時洗顔し、新しいマスクに変えてもらう事も清潔を保つポイントになります。イベントなどで不織布マスクが指定されている場合もあります

が、指定が無く感染リスクが低い際は布やウレタン製品を選択することも良いと思います。また、荒れやニキビが治りづらい場合はステロイド軟膏やご瘡治療薬に対応します。

頻回の手洗い、アルコール消毒で手荒れがひどくなり受診される患者さんも多いです。手洗いで水分が残っていると余計に乾燥するため、しっかりと水気を拭き取り、その都度ハンドクリームで保湿します。アルコール消毒液が乾いたあとにも保湿剤を塗布しておくことで乾燥が防げます。荒れがひどい場合、ジェル状、ローション状の保湿剤はしみで痛みます。クリームや軟膏タイプを選んで頂くとしみにくく塗りやすいです。

《帯状疱疹の予防接種》

帯状疱疹という病名を耳にしたことがある方も多いと思います。体のどちらか半分に水ぶくれ、赤み、痛みを生じます。水ぼうそうのウイルスが原因です。子供のころ水ぼうそうにかかった事があれば、誰にでも発症する可能性があります。50歳代から発症率が高くなり80歳までに約3人に1人が発症すると言われております。皮膚の症状は1週間ほどで改

善しますが、痛みが長く続く場合があります。それは帯状疱疹後神経痛という状態で、長年苦しんでいる方もいます。

帯状疱疹には予防接種があり、当院でも接種出来るようになりました。50歳以上の方が適応です。不活化ワクチンと生ワクチンがありますが、当院は不活化ワクチンのみの取り扱いになります。費用は1回21000円、2か月後に2回目接種を行います。ワクチンの接種は発症を完全に防ぐものではありませんが、90%を超える発症予防効果があるとされています。帯状疱疹、帯状疱疹後神経痛の両方に高い予防効果が期待できます。是非、検討してみてください。予約制ですので、まずは通院している科の先生（全科で予約可能です）もしくは受付窓口で相談をお願い致します。

《原発性腋窩多汗症》

いわゆるわき汗の治療

原発性腋窩多汗症とは、原因となる病気や障害がないにもかかわらず、多量のわき汗に悩まされる疾患です。主な治療法には汗の出口を塞ぐ働きのある塩化アルミニウム製剤の塗布、汗を出す指令を伝える神経に作用するボツリヌス毒素の注射、

形成外科



形成外科
長田 篤祥

千曲中央病院形成外科の長田篤祥です。平成24年4月より外来を開院させていただいています。そこから早10年が経ちましたが、いまだに形成外科は耳慣れない科でどんな病気や治療をしているかご存じない方もいらっしゃると思います。そこで、今回は形成外科について、また千曲中央病院ではどんな治療ができるのかをご紹介します。

形成外科は簡単に表現すると皮膚科になります。多い疾患としては体表にできるできもの（ほくろや粉瘤などのいわゆるしこりやおでき）の治療を行っています。また形成外科は傷の治療を主にを行っています。創傷外科と称してその治療に力を入れています。一般的には再建外科（癌治療後の修

復）、先天奇形（子供の先天的な形態異常に対する治療、唇の割れや指が多い、耳の変形があるなど）に対する治療、美容外科が大きな治療内容となっておりますが、一般病院では皮膚外科、外傷治療をメインに治療することが多くなっています。他の科と違い一つの臓器を対象としていないために漠然としていますが、幅広くいろいろな疾患を治療しています。

続いて、受診することが多いであろう疾患を紹介させていただきます。

《できもの》

顔や背中など体のいたるところにしこりなどのできものが生じることがあります。なかには放置するとばい菌感染を起こし赤く腫れあがり、膿みが出てくることがあります（粉瘤）。また顔のほくろやシミがもり上がってくることもあります。問題のないこともありますが、徐々に大きくなる時は時に注意が必要です。特に高齢者のできものは悪性の細胞が生じることもあり、小さいうちに治療する

汗を出す指令を伝える神経の遮断術などがあります。当院では塩化アルミニウム製剤での治療を行っていましたが、2020年に新しい外用治療薬「エクロックゲル」が登場し、外用治療の選択肢が増えました。1日1回、両腋窩への塗布で効果が期待できます。緑内障や前立腺肥大のある方には使用できません。わき汗が衣類にしみてきて日常生活に支障をきたすなど悩まれている際は、一度お試しになられてはいかがでしょうか。

千曲中央病院で
帯状疱疹のワクチン接種が
できるようになりました
詳しくは、当院受付窓口までお問い合わせください。
TEL.026-273-1212

皮膚科 診療のご案内						
診療時間	月	火	水	木	金	土
午前 9:00~12:00	○	○	○	○		
午後 2:00~3:00	○	○	○	○		
			手術日			

休診日：祝祭日、第3本曜日、年末年始、7月1日（創立記念日）
※医師の都合により急遽休診・変更となる場合がございますので、ご了承ください。

ことをおすすめます。何かあるなど感じれば放置せずに病院を受診していただければ、形成外科もしくは皮膚科で診察を行います。皮膚科と連携し手術の適応を検討し治療を行っています。

《眼瞼下垂症》

まぶたが下がってきて視界が悪く、見えづらくなったことはありませんか。瞼の筋肉・腱は加齢とともにゆるみ、まぶたが上がりがづらくなる場合があります。そのままでは見えづらいう状態が続き日常生活が不便になられる方がいます。そのような場合、瞼の上がりづらさを治す治療があります。瞼を上げる筋肉や腱を治したり、余剰となり垂れてきた皮膚を切除したりすることで、見えづらさを改善することが出来ます。

《顔面のシミや首周りの小さなイボ》

お顔や首に気になるシミやイボはありませんか。当院では昨年より新しい炭酸ガスレーザーを導入しました。少し盛り上がったシミ、首に沢山あるイボ、だんだんと大きくなってきたほくろなどありま

せんか。多くの場合、外来でその日のうちに治療することが可能です。気になるものがあればご相談ください。また盛り上がりのないシミはルビーレーザーでの治療も可能です。

怪我をした際には形成外科で治療させていただきます。擦り傷、切り傷、やけどなどをされてしまった場合は形成外科にご相談ください。ご高齢の方でうでやあしの皮膚がうすくズルむけてしまう方（スキンテア）をお見受けします。早く治療を開始すると治療期間が短く、痛みも少なく治すことが可能です。放置せずに早めにご相談をお願いいたします。

この症状は何科にかかればいいのだろうか？と思われる方は、一度受付にご相談ください。

今回は全ての疾患をご案内できませんが、ご興味のある方は日本形成外科学会のホームページにて形成外科が治療する疾患をご紹介しますのでご覧ください。

<https://jsprs.or.jp>



8. 電話応対調査における接遇委員会の取り組み

口演8 接遇委員会 青木理紗



接遇委員会では、2年に渡り電話応対アンケートをとりました。2020年は実態調査をし、2021年は事前に前年度の注意点を掲げ、意識を高めた上でアンケートをとりました。結果、前年度より応対が改善しました。電話応対の改善が業務の円滑化、患者様やご家族様に安心感を与え、病院の信頼に繋がると考えます。また電話している当事者だけではなく、周囲にも気を配った応対が出来るよう取り組んでいきたいと考えます。

9. 2階北病棟における転倒・転落の発生と要因の調査

口演9 2階北病棟 水熊明菜



今回、転倒・転落について研究しました。研究を通してどんな場面で転倒・転落が起こっているのか改めてわかりました。

2階北病棟は回復期リハビリ病棟のためADL維持・向上に向け日々リハビリを行っています。日々の生活がリハビリにもつながるため、ADL低下を防ぎながらも、スタッフ内で転倒・転落予防について話し合い、患者さんとの関わりの中で意識一つでも転倒・転落を防いで行けるよう頑張りたいと思いました。

10. 大腸内視鏡検査における前処置不良の改善を目指して～DVD視聴を取り入れた検査説明を行なって～

口演10 中央手術部内視鏡室 半田智代



今年度は大腸内視鏡検査説明を担当することで患者様に寄り添えることができたと思います。限られた時間内で安全に検査が行えるよう業務に努めています。来年度は健診センター、外来、病棟スタッフさん、医師との関りを深めより良い看護の提供を目指していきたいと思えます。令和3年5月より中央手術部内視鏡室になり、もうすぐ1年になります。新しい内視鏡室の歴史を作っていきたいと考えます。

11. COVID-19 ワクチン接種後における血液凝固時間の変化

口演11 臨床工学科 若林寛子



人工透析患者は新型コロナウイルスの重症化リスクが高いと考えられています。2021年5月の時点、先行接種で情報が少ない中、ワクチン接種後に脳出血・クモ膜下出血等で死亡例が報道され、接種を不安に思う患者様の意見があり、治療中の血液凝固時間の変化を調査しました。調査の結果ワクチン接種をしても安全に治療が可能でした。

今後も感染拡大・重症化を防止する観点で安全・安心な医療を提供していきたいです。

12. 新型コロナウイルスに対する検査科の取り組み

口演12 検査科 楢木康平



新型コロナウイルス検査について、導入に至る経過から検査の特徴・体制についてお話しさせて頂きました。今回、発表時間の都合で内容を削り、説明しきれなかった部分が多くあります。今回の内容にまつわることや、その他日常の検査について疑問に思うことがあれば気軽に検査科にお声がけください。これからも患者様や医師、他スタッフの力になれるよう励んでいきますのでよろしくお願いいたします。

13. 経管栄養に関する看護師と管理栄養士による業務改善の取り組み～RTH製剤の使用経験と紙ボトル製剤の導入をめざして～

口演13 2階東病棟 土川ひろみ



RTH製剤を清潔に注入し下痢を予防するためには、経管栄養関連物品を清潔に管理することがとても重要になります。

このポスター内容を足止めてみて頂き、今までの状況を再確認しつつ多職種の方々に興味を持って頂けたらと思っています。

院内全体にも拡散していきたい内容ですので、ご意見等がありましたらお声がけください。

14. 3階北病棟における不穏発症例に関する検討

口演14 3階北病棟 山岸清子



今回「3階北病棟における不穏患者の検討」と題して発表させていただきました。実際に患者さんの病態や環境などに分類して抽出し、不穏のあった患者となかった患者とでの違いをグラフでまとめました。各分類項目で、両者の差が現れており、当病棟で不穏になりやすい因子を知ることができました。準備は大変でしたが、ある程度の結果が出たことは学びになりました。今回知り得たことを病棟での業務に生かしていきたいと思えます。

第24回 千曲中央病院学術集会

日時：2月19日(土) 13:00～16:00

場所：千曲中央病院5階講堂

学術集会は、新型コロナウイルス感染症対策を十分に講じた上で開催いたしました。

(演者コメント)

1. 排泄時のナースコールに対する迅速な対応への取り組み

口演1 2階北病棟 福原恵理



2階北の回復期病棟では急性期を脱した患者様がリハビリ目的で入院されており、日常生活動作に介助を要することが多く、一度に多数のナースコールがなることがあります。今回病棟でナースコールの実態調査を行い排泄のナースコールが多いことがわかり、取り組みを決め、実施後の調査では排泄のナースコールが減っていました。このことより今後も取り組みを継続し、患者様が安心して療養生活を送れるよう努めたいと思えます。

2. エンゼルケアへの家族参加に関する看護師の対応～当院におけるエンゼルケアの実態～

口演2 3階北病棟 栗原里実



今回「エンゼルケアへの家族参加に関する看護師の対応～当院におけるエンゼルケアの実態～」の看護研究を行いました。アンケートやインタビューを通して、当院のエンゼルケアの実態を知れたことで、エンゼルケア時の看護師としての関わりや、ご家族の心情など改めて学ぶことができました。この学びを今後病棟でよりよいエンゼルケアが提供できるように活かしていきたいです。

3. 膀胱留置カテーテルの留置継続や抜去に関する看護師の意識調査

口演3 3階北病棟 小山まゆみ



今回、日頃から疑問に感じていた「膀胱留置カテーテルの留置目的や留置継続の必要性」をテーマに研究をすすめました。アンケートによる看護師の認識や意識には大いに相違があり、実施前の予想を上回るものだったのは驚きでした。今回の研究結果を病棟での業務に生かし、患者さんの利益になる看護につなげたいと思えます。研究をすすめるにあたっては大変なこともありましたが、とても良い経験になりました。

4. フットポンプ装着中の術後の適切な療養環境の提案

口演4 3階西病棟 太田佳乃子



人工関節置換術の術後に装着するフットポンプは作動音や振動が発生します。今回、音や振動が不快となっていないか調査、研究を行いました。研究の結果、それらの対策には感染対策の点からもクッションマットが適していると考えられました。また、音、振動以外の不快、苦痛に対し配慮の必要性が再認識出来ました。研究の結果を病棟スタッフと共有し、患者様にとって心身の安静が保て、術後の回復が促進できる療養環境を提供していきます。

5. 若年性の右視床出血を呈した症例の歩行再建

口演5 リハビリテーションセンター 伊藤大樹



院内学術集会に参加させて頂き、ありがとうございました。今回、患者様の希望を叶えるため自分なりにアプローチ方法を考え、装具や練習方法、内容を工夫して関わりました。患者様が歩いて退院した姿を見て、気持ちに寄り添い関わる大切さを改めて学ぶことができました。また、自身のリハビリテーションを見つめ直す良いきっかけになったと感じます。今後も自己研鑽に努め、専門性を生かし日々の業務に取り組みたいです。

6. 小脳梗塞を呈した患者の歩行自立と家事動作獲得を目指した一症例

口演6 リハビリテーションセンター 滝澤太一



今回の学術集会発表を通して、退院後の生活を見据えた Goal 設定とそれに向けたリハビリ介入の大切さを改めて実感しました。歩けるようになったら達成ではなく、歩きを生活場面に落とし込んだ際にどんな問題点が上がってくるかなど考えていくことが大切だと感じました。また、家事動作など院内では再現に限界がある場合などもあるため訪問リハビリなど実際の生活場面での訓練につなげることの大切さも改めて実感することが出来ました。

7. 入院による高齢者のADLを維持するために必要な支援とは～3階北病棟の調査から得られた結果からの考察～

口演7 3階北病棟 山田寿恵



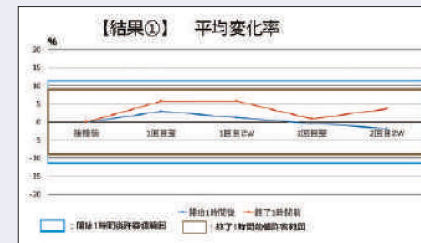
高齢患者様のADLを維持するために必要な支援とはと題して、3階北病棟の調査から得られた結果からの考察を報告しました。

今回の発表を終えて、改めてそれぞれの専門性を生かした多職種カンファレンスの必要性を感じました。今後も、入院された患者を包括的に評価し、患者、家族の希望に添った方向性、早期退院に向け介入を行なおうと思えます。

演題 11 COVID-19 ワクチン接種後における血液凝固時間の変化

若林寛子¹⁾ 青木雅浩¹⁾ 瀬在洋一¹⁾
大西禎彦²⁾ 武舎玲子³⁾
(特医)財団大西会千曲中央病院 臨床工学科¹⁾ 内科²⁾ 看護部³⁾

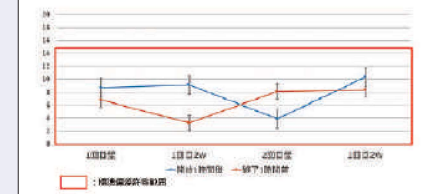
【結果】



	1回目翌	1回目2w	2回目翌	2回目2w
開始1時間後	2.9%	1.25%	-0.43%	-1.74%
終了1時間前	5.71%	5.73%	0.88%	3.68%

当院のACT基準値より平均変化率は開始1時間値±11.1%。3時間値は±9.0%なので範囲内に収まる。

【結果②】 変化率の標準偏差



	1回目翌	1回目2w	2回目翌	2回目2w
開始1時間後	8.70	9.12	3.88	10.35
終了1時間前	6.77	3.25	8.12	8.36

当院のACT基準値より標準偏差15以内なので範囲内に収まる。

【結論】

当院の血液凝固時間の基準では、平均変化率は11.1%、標準偏差は15以内であれば問題がないため、ワクチン接種に伴い治療中の抗凝固薬の使用量変更をせずに安全に治療ができると考えられた。

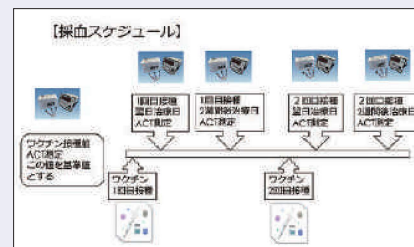
治療前にワクチンを接種した患者様においても、フィルターの残血や血液回路チャンパー内の凝固、止血時間の延長は見られなかった。

【目的】

人工透析患者はCOVID-19の重症化リスクが高いと考えられている。2021年5月時点で基礎疾患があり、先行接種という形でCOVID-19ワクチン(以下、ワクチン)の情報が少ない中、ワクチン接種後に脳出血・クモ膜下出血等で死亡例が報道され「出血傾向が促進されているのではないかと、ワクチン接種を不安に思う患者様の意見を聞いたので、血液凝固時間を測定し、凝固時間の変化を調査した。

【対象および方法】

当院維持透析患者のうちワクチン未接種で抗凝固薬へパリンを使用している方6名
(ヘパリン：ニプロ社製ヘパリンNaプレフィルド)
男性5名 女性1名 (うち、糖尿病性腎症患者3名)
平均透析歴 14.1±12.0年
接種時平均年齢 66.3±11.8歳
ワクチン：ファイザー社製
ACT測定機器：トライテック社製 アククライク mini II
テストチューブ凝固活性剤：セライト




接種翌日に調査を行ったのは、発熱・倦怠感・腕の痛み等の副反応が一番多いタイミングだからである。また接種の2週間後にも調査したのは、2021年5月時点でのWHOのワクチンの抗体価が高くなるタイミングという情報からである。

患者様の透析治療開始1時間後と終了1時間前に血液回路動脈用ニードルレスポートより2cc採血し、血液凝固時間の測定を行い、ワクチン接種前の血液凝固時間を基準に採血タイミングごとに、ワクチン接種後の血液凝固時間の平均変化率と標準偏差を求め比較・検討を行った。

「選ばれる」と「集いし人々とともに」大西益太郎伝(その5)

著者・清水 協 (1996年7月1日発行) ちゆ

千曲中央病院創始者 大西益太郎氏の伝記です。清水協氏の執筆により一九九六年七月一日に発行されました。シリーズとして掲載していますので、ご愛読ください。



大西 益太郎 (1902-1989)

第一章 少年の頃

三 長野中学へ進学を果たす

入学—恩師の熱意に動かされ—
高等科に移った益太郎の心には、あきらめ切れない思いも残っていた。しかしこの時代には彼の周りにも、長男のため家業につくしかない者や、経済的な事情で進学を断念する者たちが数多くいたのである。

「忘れるしかない…」
—自分言い聞かせるしかなかった。
そんな益太郎に対して父親は、卒業したら鉄道を受けたらどうか勧めた。八年前にできた鉄道国有法で国内の鉄道の九割を手中に収めた国鉄は、当時の花形の職場だった。ことに産業に乏しい信州にあっては、教職など並んで良い就職先だったのである。家業とは違うことを勧めたのは、長男に対する父親の精一杯の思いやりでもあった。

しかし一年も終わりに近づく頃、益太郎には大きな転機が訪れる。そのきっかけをもたらした

たのは前年、両親に進学を勧めた担任の荒川義男だった。荒川は高等科でもまた、彼の担任だった。この秀でた教え子の将来を誰よりも惜しんだ彼は、大正五年も二月に入ったある夜、再び家を訪れたのであった。もう一度だけ説得してみよう—、そう考えたのである。

「私自身、このままでは残念、という気持ちが強まるばかりです。何とかもう一度、お子さんの中学進学を考えていただけませんか、というふうか—」
荒川は父親の前で、両手を突いて言った。
「益太郎君の才を生かすのは世のため、人のため…。何もできない私がこんなことを言うのは、まことに勝手ですが…」

かつて、戦後の貧しさの残る頃まで、こうした教師が確かっていたのである。
「こうまで言ってくださるのは、大変あり難いこと。どうだろう、わしらも心と踏ん張って…」
高蔵がつぶやくように言った。隠居の立場の祖父は、一年前のこの時も、意見めいたことは口にしなかったのであるが、
しかしこの時、荒川の熱意に動かされたのは、彼だけではなかった。
「入学試験だけでも受けさせてみようか—」

竹一郎の胸には、初めてそんな思いが浮かんだのである。
礼を言い、祖父と共に荒川を送り出したあと、父親は小学生のむついや忠雄、さらには今年ようやく入学するゆき子や幼い平八郎にまで取り囲まれたのである。
「兄ちゃん中学へやってくれ。おら達家のこと、もつとやるから」
その春益太郎は、一五〇人中一八番という好成绩で長野中学に入学した。彼は入学式のその日さえも、この運命の急転換の真只中にいる自分を信じられなかった。

「私と荒川先生の出会いは偶然でしょうか？
運命でしょうか？…とにかく私は、荒川先生らの御蔭で医者になれたのです」
後(こう記しているように、この頃から彼は「自分は人によつて、あるいは周りの何か大きな力によつて生かされている」という思いを抱くようになっていった。
なお、この年益太郎が中学に進学できた背景には、次のような時代の追い風も働いていた。彼が中学生となった大正五年(一九一六年)は、第一次世界大戦の特需景気に日本中が沸き返った時期であった。高等科に入る頃始まった好況の波は、一年後のこの頃、最高潮に達しようとしていたのである。そしてそれに伴い社会は、この年大正デモクラシーの思想が華開いたことにも見られるように、開放的で前向き、楽観的な雰囲気になった。こうした時代の上げ潮が、大西家の人々にも、新たな勇気を与えていたということができる。

また、この年長野県にあっては、松本・長野両市の間で、のちに益太郎も入学する高等学校

の誘致合戦が繰り広げられたのであった。本格化する経済・社会の近代化の中、より高度な教育への関心も高まりつつある。そんな時代であった。

「そんなやらんでも…」
手伝う益太郎に家族の誰もが言ったが、習慣づけられた体は、傍が思う以上に自然に動いた。また「これ以上負担をかけられない—」と思う彼は苦勞という思いもなかった。
しかし往後二時間以上を費やし、仕事も手伝う益太郎には、量も密度も増した中学の学習をこなすのは楽ではなかった。だが医者という職業が、夢ではない現実の目標となった手では、それらも最早、大きな困難ではなかった。彼は持ち前の集中力を発揮して、限られた時間を効果的に使った。そして成績をさらに伸ばしていった。

そんな中、一時期は長野で下宿生活をしたこともあった。しかしその時も土曜日は戻って風呂の水くみ、水運びなどをした。このため彼の腕は、華奢な体つきに似合わぬほどたくましくなった。(次号に続く)

あんずだより 令和四年四月一日発行 / 長野県千曲市杭瀬下五八番地 / 特定医療法人財団大西会千曲中央病院 / 発行責任者千曲中央病院理事長・院長 大西禎彦 TEL 026-273-1121 FAX 026-273-1299

診療科	専門		月	火	水	木	金	土 ※午前のみ	
内科	一般内科	午前	多田	植田(漢方外来) 久保田	松本(史)		島田		
		午後	多田	久保田 (受付15:00まで)			島田(受付15:00まで) 須原		
	消化器	午前	宮林(新患のみ11:00~) 窪田	宮林	窪田	宮林 (肝臓外来)	長田 (予約のみ11:00~)	宮林・窪田	
		午後		昭和大医師	昭和大医師	宮林(紹介のみ) 松本(晶)	松本(晶)	松本(晶)	
	内分泌代謝	午前		久保田	横田	春日	島田		
		午後	山内	久保田 (受付15:00まで)	横田	春日 (予約のみ)	横田(受付15:00まで) 島田(受付15:00まで)		
	腎臓	午前				大西禎彦	大西禎彦		
		午後	大西禎彦						
	呼吸器	午前							
		午後		神田 (第2・4週のみ)					津島 (第1週のみ)
	循環器	午前	山田(10:00~)	山田	東海	東海	高橋		
		午後			東海(予約のみ) 太田	小山(新患のみ)	小山		
	外科	一般外科 消化器外科 肝胆膵外科	午前	大西雄太郎	長谷川 大久保			長谷川 大久保	大久保 / 長谷川
			午後						大久保(肝臓外来/ 予約制第3・4週のみ)
整形外科	一般整形	午前	原	都筑	田中	前田	江崎	信大医師	
		午後	原 (受付16:00まで)	都筑 (受付16:00まで)	田中 (受付16:00まで)	前田	江崎 (受付16:00まで)		
	膝・股関節	午前	森岡(9:30~)		森岡(9:30~)				
		午後					森岡(予約のみ)		
脊椎脊髄	午前		矢澤		矢澤	矢澤			
	午後			矢澤(骨粗鬆症)					
脳神経外科	午前	市川	市川	斎藤 飯島(予約のみ)	市川	市川	日赤医師		
	午後	飯島	飯島	斎藤	飯島		飯島(予約制/ 第1・3・5週のみ)		
泌尿器科		午前	逸見	逸見		逸見	逸見		
皮膚科	午前	今井	今井	今井	今井				
	午後	今井 (受付15:00まで)		今井 (受付15:00まで)	今井 (受付15:00まで)				
形成外科		午前			東京女子医大医師	東京女子医大医師	東京女子医大医師		
歯科	午前		大西聖彦・大西真理						
	午後								

1. 午前受付 8:00 ~ 12:00
午後受付 12:00 ~ 17:00
2. 【午前診察】 9:00 ~
【午後診察】 14:00 ~ ※土曜日は午前中のみ
3. 急患等でお待たせする場合がありますが、その際はご容赦ください。
4. 休診日：日曜日・祝祭日、第2土曜、第3木曜、年末年始、7月1日(創立記念日)
5. 医師の都合により急遽休診・変更となる場合がございますので、ご了承ください。
6. 予約および予約変更の受付 月~金曜日 15:00 ~ 16:00 (歯科は除く)

緊急診察は24時間365日対応しております。緊急の場合はもちろん、不安を感じた時でも遠慮せずご連絡ください。TEL.026-273-1212